

地域づくり活動応援（パワーアップ）事業の実施状況について

1 事業概要

県民の参画と協働の推進に関する条例に基づき、地域社会の共同利益の実現を図るため、地域団体（自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会等）等が提案する、地域をよりよくする様々な取り組みの企画に対して、各県民局ブロックごとにそれぞれの地域特性に応じて助成を行う。

なお、事業の実施にあたっては、県民局が、各地域における地域団体のネットワーク組織であるところ豊かな美しい地域推進会議（以下「地域推進会議」という）に補助し、同会議が募集、助成決定、交流・報告会の開催等を行う。

なお、事業の実施にあたっては、県民局が、各地域における地域団体のネットワーク組織であるところ豊かな美しい地域推進会議（以下「地域推進会議」という）に補助し、同会議が募集、助成決定、交流・報告会の開催等を行う。

年 度	平成15年度		平成16年度～	
事業名	地域団体活動パワーアップ事業		地域づくり活動応援事業	
枠区分	活動枠	テーマ枠	活動枠	広域活動枠
助成率	定 額		定 額	
対象事業	地域団体等が独自に、又は他のグループ・団体・NPOなどとともに実施する地域社会の共同利益の実現につながる取り組み			
	地域団体等の創意工夫による地域特性を生かした取り組み	地域ビジョンの実現に向けて、各圏域における地域経営上の観点から、県民局長が特に指定するテーマ項目に該当する取り組み	平成15年度と同じ	中間支援組織である広域団体等（市町域を越える地域団体の連合組織等）による取り組みや市町域を越える取り組みで、活動拠点の整備や活用を行うもの
助成額	500千円/団体以内		500千円/団体以内	1,000千円/団体以内
予算額	地域戦略推進費 ～ は10,000千円/県民局 は6,000千円程度/県民局			

2 事業実績

（単位 件数：件、金額：千円、採択率％）

区分	神 戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但 馬	丹 波	淡 路	合 計	
応募	件数	264	325	314	310	295	331	164	258	200	208	2,669
	金額	84,910	112,543	116,590	107,553	107,303	122,920	69,062	87,575	83,355	72,184	963,995
助成	件数	249	209	252	286	274	259	160	241	192	186	2,308
	金額	48,080	49,463	49,488	48,500	49,512	49,606	47,622	48,410	49,388	49,834	489,903
	平均	193,092	236,665	196,381	169,580	180,701	191,529	297,638	200,872	257,229	267,925	212,263
うち広域	件数	33	3	3	3	11	20	18	15	15	14	135
	金額	6,310	1,080	1,016	360	2,860	4,850	10,833	4,300	4,453	5,543	41,605
	平均	191,212	360,000	338,667	120,000	260,000	242,500	601,834	286,667	296,867	395,929	308,185
採択率	94.3	64.3	80.3	92.3	92.9	78.2	97.6	93.4	96.0	89.4	86.6	

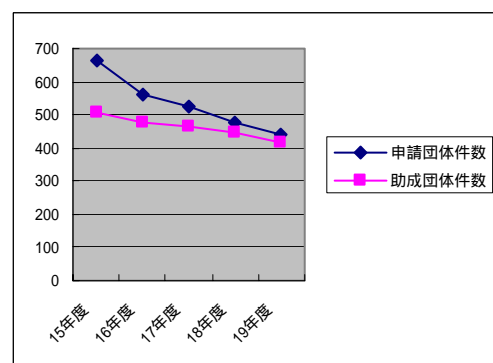
3 5年間実施結果(平成15年度～19年度)

(1) 申請金額・件数、助成件数・金額

5年間の合計では、予算額(5億円)を大幅に上回る申請があった。助成決定については、地域ごとの助成決定方法に基づき、助成額が決定された。5年間の推移をみると申請団体の件数はなだらかに減少している。事業に対する助成であり、同一事業には継続して助成できないことやノウハウを得て次年度は自立して活動する団体もあることなどがその要因と考えられる。

各年度の申請金額・件数、助成件数・金額 (単位 件数: 件、金額: 千円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	合計	
申請	件数	663	560	528	475	443	2,669
	金額	240,679	209,720	193,039	163,020	157,537	963,995
助成	件数	506	478	466	448	410	2,308
	金額	98,317	98,268	97,915	98,830	96,573	489,903
	平均	194	206	210	221	236	212
広域	件数		37	41	32	25	135
	金額		11,517	12,154	8,960	8,974	41,605
	平均		311	296	280	359	308

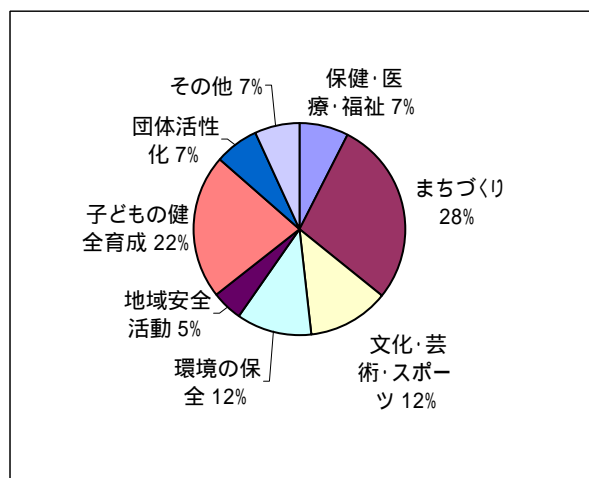


(2) 活動分野別の状況

全体的には、まちづくり、子どもの健全育成の取り組みが多く見られた。次いで文化・芸術・スポーツ、環境保全など、地域の文化の継承や環境を守ろうとする事例も多く見られた。また、各地域が重点的に取り組むテーマ、条例の制定など社会気運の高まりに応じたもの、国体の開催にあわせて、おもてなしに向けたまちづくりなどが多く取り組まれた。地域課題解決のためのさまざまな取り組みを対象とするこの事業の特徴が現れた結果といえる。

助成団体活動分野内訳(5年間合計)

区分	団体数
保健・医療・福祉	172
まちづくり	657
文化・芸術・スポーツ	282
環境の保全	267
地域安全活動	105
子どもの健全育成	511
団体活性化	155
その他	159
合計	2308



<テーマ設定や気運の高まり等で特に取り組まれた事業>

県民局での重点的な取り組み

例) 西播磨地域でテーマが「環境・共生の社会づくり」等の広域活動枠事業

但馬地域でテーマが「少子化対策」の取り組み

国体開催に関連するおもてなしのための取り組み

例) 香寺花舞台をつくろう(国体のための環境整備事業)(中播磨)

国体を成功させる花いっぱい運動(北播磨)

地域安全まちづくり条例制定に伴う関連した取り組み

例) 他団体と協働した地域防犯の向上(神戸)

地域子ども防犯隊活動(阪神南)

食の安全安心と食育に関する条例制定に伴う関連した取り組み

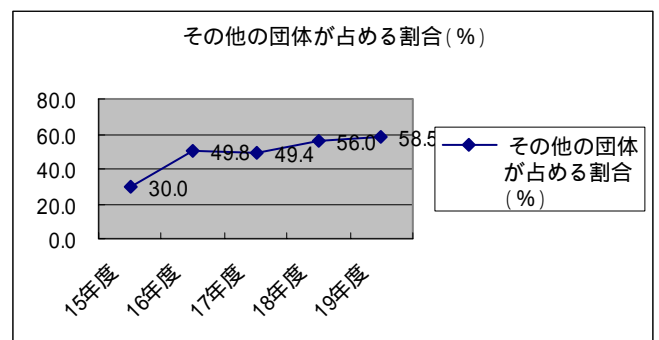
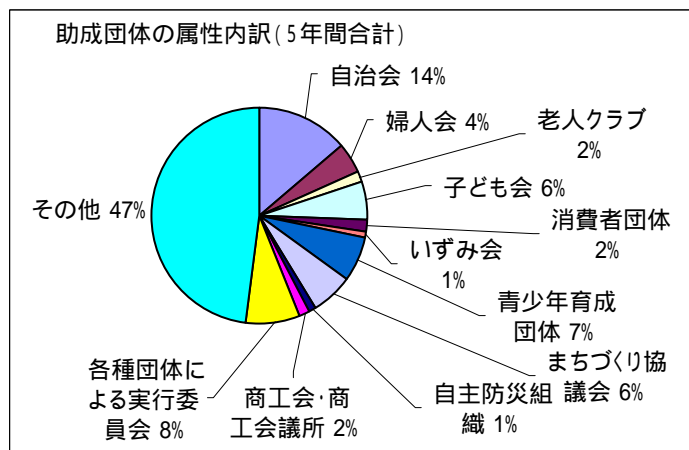
例) おばあちゃんとお母さんとボクとワタシがつくる丹波の食(丹波)

「御食国」淡路の風土&FOOD 活性化事業(淡路)

(3) 団体属性別の状況

地域団体(自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会等)のなかでは自治会が最も多い。年度ごとでは多少の増減はあるが、各地域団体ともに減少傾向にある(自治会 17.0% 11.0% 婦人会 5.1% 2.7% 老人クラブ 3.8% 0.5% 子ども会 9.5% 3.4% 青少年育成団体 9.1% 8.5% まちづくり協議会 9.3% 3.2%)

一方、「その他の団体」が平成16年度以降半分近く(49.8%)を占め、毎年割合を増やしており、地域で活動の裾野が広がっているといえる。(49.4% 56.0% 58.5%)。「その他の団体」とは、職種別団体や地域団体の有志活動につながった団体、県や市町の講座受講やビジョン委員経験者等で結成した団体のように学習経験等の成果が実践活動につながった団体、地域課題に取り組むボランティアグループ団体など、地域の課題解決のために活動していた、または結成された団体などである。



(4) 協働の状況

地域団体が、他の団体やグループ、NPO等と協働することにより、お互いが補い合うことによる相乗効果やお互いのノウハウの共有などの効果が期待されることから、協働のネットワークを広げることを当初から働きかけている。5年間の合計では、全県で約80%の事業が、協働のネットワークを広げた取り組みである。また、協働の取り組み方は、地域団体同士はもとより、広域団体同士の協働による取り組みや、地域団体がNPOや各種専門家と協働した取り組み、まちの活性化に向け地域団体が企業や商店街と協働した取り組みなど、年々多様なネットワークづくりが見られた。

助成団体の協働の状況（5年間合計）

区 分	団体数	構成比
協働あり	1868	80.9
協働なし	440	19.1
合 計	2308	100.0

協働による特徴的な取り組み

自然と遊ぼうカブトムシ探検隊（但馬）

カブトムシ飼育教室、成虫コンテスト等開催に際し、企業4社が景品の提供や特産物販売等で協働。

本町まちの魅力発見からくりづくり（東播磨）

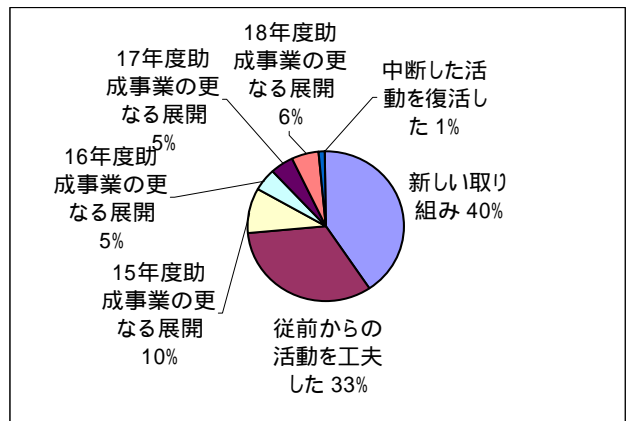
自治会が商店街と協働し、歴史的資源や見どころをまとめた町並み散策マップを作成。

広げよう文化ボランティアの輪（阪神北）

地域団体がフォーラムや展示会を開催し、NPO法人と協働で文化ボランティアのネットワークを構築。

(5) 取り組みの傾向

5年間の合計は、新しい取り組みが935件（40.5%）あり、従来からの地道な活動に工夫を加えた取り組みが759件（32.9%）あった。当助成事業が新たな活動に取り組む契機となっていることがわかる。また、一度助成を受けた後、さらに進んだ活動を展開する団体も多い。



(6) 規模別の状況

5年間の事業区域は、各地域とも小学校区、中学校区及び市町域などの市町域内の取り組みが1,892件（82%）あり、市町域を超える広域的な取り組みは、416件（18%）あった。

助成事業の事業区域（5年間合計）

区 分	事業数	構成比
市町域内の取り組み	1892	82.0
地域広域の取り組み	416	18.0
合 計	2308	100.0

4年間の事業枠は、活動枠が1,667件で9割以上を占めた。また、平成16年度から中間支援組織である広域的な団体に対する重点的な助成が行われるために創設された広域活動枠は、135件（7.5%）と1割弱にとどまっている。

助成団体の事業枠（4年間合計）

区 分	団体数	構成比
活動枠	1667	92.5
広域活動枠	135	7.5
合 計	1802	100.0

平成15年度は活動枠と各県民局長が指定するテーマ枠により実施（活動枠62.8%、テーマ枠37.2%）。

4 助成を受けた代表的な活動事例

(1) 助成を受けることにより、新しい取組が生まれたり、中断していた活動が復活した

団体名：広畑校区連合子供会(姫路市) 【協働先】連合自治会、老人クラブ
事業名：校区サマーフェスティバル・校区ウォークラリー(平成17年度)
事業内容：地域住民の世代間交流、各種団体間の交流が希薄化しているため、従来のサマーフェスティバルに加え、校区内にある古い道標等を巡るウォークラリーを復活させ、異年齢・親同士の交流を促し、地域の活性化につなげた。
[成果]以前から地域住民の交流を深めるため、サマーフェスティバルの充実を考えていたが、当該助成金をきっかけに子供会でウォークラリーの復活が可能になり、助成金終了後もウォークラリー実施に対する他団体からの協力が得られるようになった。

団体名：げんき de ネット(神戸市) 【協働先】NPO 法人しゃらく
事業名：「こうべシニアネット新聞」配信(平成18年度)
事業内容：“兵庫のげんきなシニアの輝く明日をつくる”をコンセプトに「シニア世代」(概ね60歳以上)を対象に、ITを活用した「こうべシニアネット新聞」の発行に当該助成事業を活用し、開設・配信を始めた。
[成果]本助成金により、ITを活用したユニークな取組が生まれただけでなく、本助成の終了後も新たに電話取材サービスを導入し、取材強化を図るとともに、ラジオ放送や雑誌発行を行っているシニア団体等とそれぞれのメディアを活かした連携を図る取組を進めるなど充実を図っている。

団体名：大歳町自治会(宍粟市) 【協働先】大歳町婦人会、子ども会、老人クラブ
事業名：サマーフェスティバル in 大歳(平成18年度)
事業内容：10数年ぶりに地域でなくなってしまった夏祭りを復活させ、年配者が指導にあたり、太鼓や踊りなどの文化を子どもたちに伝承していった。
[成果]助成金を得られるということが、夏祭りの復活に向けた自治会会員はもとより子ども会、婦人会会員の意識の盛り上がりにつながり、様々なアイデアが出されるなど、取組が広がった。

団体名：葛畑区(養父市) 【協働先】養父市
事業名：民俗文化財を活かしたむらづくり事業(平成16年度)
事業内容：地域住民が一体となって38年ぶりに復活した農村歌舞伎に、助成金を活用して新たな演目を加えるなど伝承活動の充実を図った。地元の舞台での公演のPR活動や集客のための広報活動にも力を入れた。
[成果]本助成が農村歌舞伎の演目を増やすことにつながり、その後も伝承活動が継続されている。また伝承活動をサポートする「友の会」も創設された。平成18年には県立芸術文化センターで公演を行った。

(2) 助成を受けたことにより、団体の活動基盤が充実・強化した

団体名：芦屋市浜町自治会(芦屋市) 【協働先】老人会、子ども会
事業名：地域の安全を推進啓発する事業(平成15年度)
事業内容：自治会、老人会、子ども会の3団体が協働して、「浜町メンズクラブ」を組織し、夜間パトロール、あいさつ声かけ、放置自転車の整理、不法投棄のチェック、情報の発信等、地域での防犯、美化活動に取り組んだ。
[成果]活動の母体となる「浜町メンズクラブ」として団体の協働の枠組み、基盤が確立したことにより、芦屋警察署の全面的な協力を得られるようになったほか、その後もホームページの開設による地域の犯罪や交通事故情報の提供など活動基盤のさらなる充実につながっている。

団体名：西宮映画館建設実行委員会（西宮市）	【協働先】西宮浜マリーナパークシティ社のまち自治会、子ども会
事業名：「1日だけの映画館」のマネジメントを通じた、市民による映画館上映者育成ワークショップ（平成16年度）	
事業内容：映画館がない西宮市に映像文化を共有する機会を創出するため、自治会、子ども会、ボランティア団体が協働して、上映会運営講座、野外映画上映会の開催を通じて、市民自らが「上映者」となる「上映主体」の育成を図った。	
[成果] 本事業を活用した事業実施により、「西宮映画館建設実行委員会」（通称名「シネギミック」）の知名度が上がるとともに、 <u>会費、事業収入も安定するなど団体の活動基盤の強化が図られた。</u> 「シネギミック」では、 <u>現在も野外映画上映会の開催、映画と映画館についての調査・研究、ホームページによる情報発信など活動の充実を図っている。</u>	

団体名：はらぺこあおむし（明石市）	【協働先】JAあかしキャベツ部会
事業名：あかし特産キャベツPR事業（平成16年度）	
事業内容：明石の特産であるキャベツの周知を図るため、料理講習会を開催するほか、キャベツに関する知識や調理方法を紹介したパンフレットを作成、配布した。	
[成果] 本事業を終了後、 <u>飲食店営業（露店）許可を取得するなど、団体の基盤強化を図ったことにより、JA直売所店頭での「キャベツ焼き」の販売、キャベツの調理方法のPR活動や小学校での食育教育へと活動の充実・拡大につながっている。</u>	

団体名：ひまわり柚遊農園実行委員会（春日町）	【協働先】区内老人クラブ、睦会、子ども会
事業名：ひまわりの咲くいこいの村活性化事業（平成15・16年度）	
事業内容：平成15年度は荒廃する優良農地を活用して、景観作物「ひまわり」の作付けを行いひまわりの迷路や切花の提供を行なった。平成16年度は作付け面積の拡大や、老人クラブや有志がスイートコーンや黒大豆の枝豆を作付けをし、ひまわり祭りに販売、生涯学習の一端を担った。また阪神間からの観光客と農村交流も図れた。	
[成果] 本助成の助成後も、ひまわりの作付け面積を毎年増やし、昨年は世界のひまわりの作付けを行うなど趣向を凝らした「ひまわり祭り」を企画し、情報誌や新聞折込広告によるPR効果もあり、年々入場者が増えている。また、自己資金の確保のため、ひまわりの切花の販売や迷路の大人の入場料を有料にする等の工夫をして、 <u>事業の継続、拡大を図っている。</u>	

(3) 助成を受けたことにより、他団体・グループや企業、行政等との協働がすすんだ

団体名：元町東地域協議会（神戸市）	【協働先】三宮中央通りまちづくり協議会
事業名：Motomachi East JAZZ Picnic.（平成15年度）	
事業内容：日本におけるジャズの発祥の地でもある神戸の中心である元町で、青少年のジャズに対する夢舞台を演出するとともに地域の音楽文化の質を高めるため、中高生のジャズバンドのストリートコンサート等を実施した。	
[成果] 本事業の成功体験をもとに、その後も協賛企業や関係団体、行政などの協働先を増やし、地元商店街の協力のもと、元町地域のイベントとして定着している。また、中高校生の音楽文化イベントとして評価され、出演校も増加している。	

団体名：鹿の奮（八鹿町）	【協働先】但馬長寿の郷、ボーイスカウト但馬地区
事業名：自然と遊ぼうカブトムシ探検隊（平成15年度）	
事業内容：現代っ子に但馬の自然や風土に触れ、自然の大切さ、命の尊さを学んでもらうことを目的に、カブトムシの幼虫採取や育てた成虫のコンテストなどのイベントを実施した。	
[成果] 本助成の終了後も、ボーイスカウト、商工会、高校等との協働により、 <u>現在もイベントの実施を継続している。地域への認知度も高くなり参加者も多く、人気のイベントとして定着している。</u>	

団体名：特定非営利活動法人クワンズKOBЕ(神戸市)【協働先】(株)ロッテ
事業名：ガムと共生した、お洒落で美しく安全ですこやかなまちを目指して(平成16・17年度)
事業内容：ポイ捨てガム・落書きのない美しいまち神戸をめざして、高圧スチームマシン「ねっとう君」を活用したポイ捨てガム・落書き除去活動を実施するとともに、啓発グッズやユニークな看板を設置して啓発活動を展開し、NOポイ捨てガムマナーの普及を図った。
[成果] 本助成を終了後、NPO法人となり、神戸大学・大学院生による「灘・丸洗いプロジェクト」や「まち美化エンジェル」と協働したポイ捨てガム・落書き除去等の地域美化活動を拡大実施している。また、野田北ふるさとネットや地元小学校PTA・企業・行政などの拡大した協働先と、新たに地域の生活道路であるJR鷹取駅地下道の美化活動を地域住民活動として定期的に展開している。

団体名：高畑町内会(加古川市) 【協働先】石打山支援ボランティアグループ
事業名：高畑石打山活性化事業(平成18年度)
事業内容：石打山を活用して、地元小学校やリトルリーグチームと連携し、炭焼きの体験学習や清掃活動を通じて、青少年健全育成や環境学習に取り組んだ。
[成果] 本事業により、小学校との連携の一層の強化が図られるようになり、トライやるウィークの積極的な受入につながった。また、この事業の成功をきっかけに地元住民団体との連携・協力が得られやすくなり、小学3年生を対象にした屋外自然体験授業の実施や環境体験地域支援委員のメンバー登録などの事業拡大に取り組んでいる。

(4) 助成を受けたことにより、活動内容が充実・拡大した

団体名：チャイルドライン神戸推進委員会(神戸市)【協働先】思春期相談所「ハートブレイク」
事業名：フリーダイヤルによる常設チャイルドライン神戸推進事業(平成15年度)
事業内容：電話を通して子どもたちの居場所を提供するため、フリーダイヤルで神戸市全区を対象に、週3日常設チャイルドライン神戸を開設した。
[成果] 本助成の終了後、活動が定着し、協賛会費や事業収入(電話相談員養成研修受講費)等により、フリーダイヤル地域を神戸市全区から全県エリア、常設日が週3日から週4日常設に拡大し、事業を継続している。

団体名：雲雀丘山手緑化推進委員会(宝塚市) 【協働先】宝塚情報ボランティアネットワーク
事業名：この街に新たな緑を育て隊! 伝え隊! (平成15・16年度)
事業内容：地区に見合った森林生態系を構想し100年~500年先を見据えた雲雀丘山手公園の植栽計画を住民参加型のイベント等で実施。立ち上げた事業をもとに、音楽を通じて街の緑を楽しむためのイベントを開催した。
[成果] 本助成終了後も毎日ボランティアと夜勤明けの消防署員による公園の清掃活動が行われ、関西学院大学グリークラブとのコラボレーションによる「緑の木陰の音楽会」、「緑のかわら版」の発行など、活動は「緑を守る」から「緑を育てる」に発展し、現在は「緑を楽しむ」活動を展開し、長期にわたるプロジェクトで事業は継続されている。まちづくりのモデルとして各地から多くの視察者の訪問がある。平成16年度地域づくり総務大臣表彰など多数の賞を受けている。

団体名：夢前町民話サークル(夢前町) 【協働先】小・中学校、公民館
事業名：夢前町の民話の語りべ育成事業(平成16・17年度)
事業内容：夢前町独自の文化である民話を普及するため、民話を掘り起こして本を製作し、小・中学校、公民館、幼稚園に配布した。
[成果] 本助成を受けたことにより、新しい民話の掘り起こしは一段落した。現在は、掘り起こした民話を手づくりの紙芝居にし、小・中学校や幼稚園に出向き、育成した語りべによる民話の普及活動を行うなど、助成終了後も事業を発展させながら活動している。

団体名：神戸市青少年育成協議会玉津第1支部(神戸市) 【協働先】神戸市立玉津中学校
事業名：生ゴミ減量化とリサイクルによる地域環境改善普及事業(平成15~17年度)
事業内容：コミュニティの低下による住環境の悪化から地域景観の向上と青少年の健全育成を図るため、子どもたちも参加した生ゴミリサイクル堆肥づくりを実施するとともに、できた堆肥を活用したフラワーポットづくりを子どもたちと一緒に取り組んだ。
[成果] 本助成の終了後、地元小・中学生や自治会が中心になり地域全体でゴミの減量化とリサイクル活動を行い、年間を通じて生ゴミリサイクル堆肥を使った「地域花いっぱい運動」を展開している。さらに子どもたちの環境学習として生ゴミ堆肥を使った露路野菜づくりへと発展し、活動範囲・内容とも拡大している。また、地域コミュニティも活性化し、子ども達と地域の大人のつながりも深まっている。

団体名：平岡・寺田池を語る会(加古川市) 【協働先】兵庫大学
事業名：寺田池の魅力づくり事業(平成15~17年度)
事業内容：寺田池を中心とするまちづくりを目指し、交流会・討論会などの話し合える場づくりやクリーンアップキャンペーン 水辺空間を活かした各種行事の開催や清掃活動などの環境街活動 寺田池ウォーキングクラブ(仮称)の設立に向けたきっかけづくり事業を実施した。
[成果] 3年間助成を受け住民参加型の取組が年々拡大している。現在、改修工事中の寺田池の安全を見守る「寺田池見守り隊」を結成し、工事完成後整備される遊歩道を利用したウォーキングサークルの設立を目指し、ウォーキングイベントを開催するなど、助成終了後も多彩な取組へと発展している。

(5) 助成を受けたことにより、参加者や対象者層が拡大した

団体名：岩崎むらづくり委員会(八鹿町) 【協働先】大阪外国語大学、春日野道商店振興組合
事業名：岩崎環境学校「円座塾」開設事業(平成15年度)
事業内容：都市等の学生が学ぶフィールドとするための円座塾開設に向けて、施設の自力建設等を計画。その一環として、地域間交流を行っている都市部の住民と、イベントや物産交流を行った。
[成果] 本助成の終了後も、宿泊できる交流拠点と特産品加工施設の建設を目標に活動している。こうした取組が地元住民に理解され、現在では住民総出の地域づくりへと発展し、平成19年度「豊かなむらづくり全国表彰」近畿農政局長賞を受賞した。

団体名：加古川市連合婦人会(加古川市) 【協働先】加古川市消費者協会
事業名：地域コミュニティ再生事業(平成17~19年度)
事業内容：子育て中の母親などを対象に「裁縫」「料理」を通じてコミュニティづくりの場を提供するなど、連合婦人会の新規事業を創出し、参加者同士あるいは婦人会会員や地域との交流を促すことにより、地域コミュニティの再生を図る。
[成果] 本事業を通して、子育て中の女性たちの仲間作りを支援できたとともに、裁縫作品をチャレンジショップで出店・販売するという新しい取り組みにも広げ、事業のPRが図られている。

団体名：大野農村生活文化保存同好会わらじクラブ(洲本市) 【協働先】連合町内会、青雲中学校
事業名：わくわくふれあいお米づくり体験(平成16年度)
事業内容：農家の方を指導者としてお米作りの体験を通して働くことの貴さ、農村文化保存の重要性を学ぶとともに、和太鼓の練習を通じて三世代交流や伝統文化の保存継承を行った。
[成果] 本事業をきっかけに編成された「子ども和太鼓クラブ」は、参加者が増え、福祉施設やイベント会場からの出演依頼も多くなるなど、地域での認知度も上がり活動が定着している。またお米づくりについては福井県小浜市と体験交流会等を行うなど、活発に事業が継続されている。

5 平成18年度助成団体へのアンケート調査結果（概要）

対 象	平成18年度助成団体
調査方法	対象団体代表者等への調査票の郵送、ファックス、郵送による回収
調査時期	平成19年3月中旬から4月末
回収率	258 / 451（団体） 57%
標本数	258団体

小・中学校区を超えた広い地域を対象にして実施する事業が多い

団体が事業を実施するにあたり対象とした地域は、「市区町程度」(27%)「市区町より広域」(24%)「小学校区程度」(21%)「中学校区程度」(9%)の順であり、8割以上の団体が小学校・中学校区という「校区単位」を超えた広い地域を対象にして事業を実施している。

助成団体は、積極的に「協働」を推進している

事業実施にあたり、9割の団体が他団体等と協働している。なかには6団体以上の協働先がある団体(15%)もある。協働先には、地域団体、ボランティアグループ、企業、市町や学校、図書館、公民館などの行政機関もあり、当該助成事業が活動団体の協働を進める契機になっていると考えられる。

ネットワークの拡充とノウハウの蓄積が進み、事業は継続・拡大している

事業実施を通じた団体への効果としては、「活動継続の体制ができた」(53%)「メンバーの結びつきが強くなった」(50%)「他の団体等とのネットワークが広がった」(45%)「活動ノウハウが得られた」(41%)などの回答が多く、団体内の結束が強まるとともに他団体との連携も広がり、事業の大きな目的であるノウハウの蓄積も進んでいる。

また、事業実施後の活動の展開については、「事業の継続・拡大をする」(72%)「他団体との協働を拡大する」(36%)「新たなテーマで活動する」(30%)などの回答があり、団体が活動を継続するとともに、創意工夫を加えて、活動を発展・拡大させようとしていることが伺える。

地域力が向上している

事業実施を通じた地域への効果としては、「多世代の交流が図れた」(57%)「課題についての住民の認識が深まった」(42%)「住民主体の活動が広がった」(37%)「地域の活性化がすすんだ」(37%)「新たな課題が見つかった」(32%)などの回答が多く、住民同士の交流がすすみ、地域での主体的な活動が広がるとともに、新たな課題が見つかるなど、地域力の向上に貢献している。

団体が力をつけ自立するためには、引き続き、情報提供や相談・助言が必要である

事業実施後確認された課題は、「活動資金が確保しにくい」(56%)「負担が特定の人に集中する」(53%)「メンバーの高齢化」(38%)「他団体等との交流機会が乏しい」(10%)などの回答があり、地域の中で理解を深め、担い手の発掘を進める必要がある。

また、行政への期待としては、「活動への資金援助」(82%)「情報提供・広報」(56%)「公共施設の開放」(35%)「地域リーダー等の養成」(33%)「相談窓口・助言」(30%)などの回答が多い。引き続き、地域団体等が人的ネットワークの形成、活動資源の確保、事業のPR方法等の活動ノウハウを蓄積・共有することができるよう、公開提案会、事業報告会等の機会による団体同士の交流をすすめるとともに、地域づくり活動サポーターによる助言、情報提供等を行っていく必要がある。

助成要件等に対する意見

助成する活動範囲について、助成団体からは「小学校区程度」(25%)「市区町程度」(28%)「市区町より広域」(19%)という意見があり、助成団体の活動範囲の実態に合っている。また、助成金額については、「10～30万円未満」(42%)「30～50万円未満」(40%)に意見が集中しているが、「50～100万円未満」(11%)の意見もあり、現行の助成金額の範囲と一致している。

6 地域づくり活動応援（パワーアップ）事業に対する選考委員長等からの意見

(1) 事業の成果等

<地域への効果>

コミュニティ意識が薄い地域において、この事業がきっかけで地域を動かしたり、助成後、事業を拡大したり、継続している事例も多い。

地域の中で文化的背景の異なる人が連帯して活動することにより、人と人のきずなの再構築につながっている。

<団体への効果>

助成団体は事業の過程で成長し、事業の達成感がその後の活動を継続するエネルギーになっている。

助成団体にとって、県民局が窓口となっていることにより、事業を進める中で県とのつながりを実感でき、活動を通じて県とのパイプができる事業である。

助成団体にとって、事業を実施したことにより、手法や団体間のタイアップ、参加者層の拡大など、新たな地域活動の展開につながっている。

<活動者の広がり>

従来は限られた人による地域活動であったが、この事業により新しい活動者が発掘でき、新たなグループ等が生まれている。

大学生や若い世代の人たちが地域活動に関わるきっかけになっている。

新たな活動者と地域団体が、活動分野をすみわけしたり、協働しながら、よりきめ細かなニーズ把握により、事業を展開している。

地域の課題として感じていることに対し、県民自らが率先して取り組んでいる。

<活動範囲、テーマ等の広がり>

団体の関心領域や活動分野が、県政の重点テーマ（地域安全、子育て支援、環境保全等）と連動しており、活動の機運が盛り上がっている。

活動範囲が、小学校区から市町域などの広い地域を対象にした事業が増えている。

地域でどのようなことが問題になっているのかは、行政には情報が入りにくいですが、この助成を行うことにより、行政が地域の現状を知るツールの一つとして役立っている。

(2) 今後の課題

5年が経過し、市町で同様の助成制度が創設されたり、県民局ごとに弾力的に運用されているので、県が一律に行うべき事業であるかという点について検討してみることも必要なのではないか。

当該事業を実施する上でも、その後の活動を継続する上においても、助成団体と情報（人材、活動場所、助成金等）を結びつけるための、きめ細かな支援を行う中間支援機能やコーディネーターの役割が重要である。

現行の助成制度は、単年度が原則となっているが、活動内容の発展が期待されるものなどは、3年程度継続助成ができるような制度としての運用を検討してみてもどうか。

取組状況を見ると8割の助成団体が協働を行っているとしているが、場所貸しや広報の協力など、形式的な協働になっている事例もある。実質的な協働を進めるために、協働のノウハウ等を提供する必要がある。

7 市町における地域づくり活動応援（パワーアップ）事業の類似事業

市町が実施する地域づくり活動に対する助成制度（現在終了分を含む）を把握するため、市町にアンケート調査を実施した（平成 20 年 4 月）。調査の対象事業は、各市町が平成 15 年度以降実施した地域団体、グループを対象とするもの 活動分野を問わないもの 団体にする事業助成であるもの（運営費助成は対象外）である。その結果、全市町から回答があり、類似事業は 19 市町 22 事業であった。

市町名	事業名	助成金額	実施年度	備考
神戸市	パートナーシップ活動助成	一般枠 100 万円/団体 テーマ枠 100 万円/団体 助成総額各 300 万円	～	
	市内 9 区での提案型活動助成	各区により異なる	～	
尼崎市	あまがさきチャレンジまちづくり事業	地域コミュニティ活動支援事業 10 万円以内/事業（～「初動支援」区分を設定、補助対象事業費の 8 割以内） ステップアップ事業 30 万円以内/事業	～	
伊丹市	市民活動タイアップ事業	1 申請団体につき、上限 30 万円 1 申請団体につき、3 年間申請可能	～	
宝塚市	まちづくり協議会公募型補助金	補助対象経費の額の 1/2 以下 ただし、1 件について 30 万円を上限	～	
川西市	地区計画及びまちづくり支援事業	30 万円/地区・年を上限	～	
三田市	三田市まちづくり活動支援事業助成金	助成金の上限は 10 万円 助成金の予算総額は 150 万円（ ）	～	
明石市	明石市民実践活動助成事業	1 グループ 10 万円を上限	～	
加古川市	市民活動バックアップ補助金事業	市民団体充実発展補助金 1 件当たり 50 万円以内 市民団体連携補助金 1 件あたり 100 万円以内	～	
西脇市	西脇市まちづくり活動支援事業	10 万円以内/団体	～	
	西脇市地区まちづくり実践補助	原則 1/2 以内で最大 10/10 まで助成	～	
三木市	市民活動支援金事業	一般事業 5 万円以内/団体 協働型事業 支援対象経費の 1/2 を上限	～	

加東市	加東市まちづくり活動助成事業	まちづくり活動費補助金 30万円以内/団体	~	
福崎町	地域づくり推進事業	事業費の9/10以内 かつ30万円以内/団体	~	継続的な事業 1年目 30万円以内 2~4年目 20万円 以内
相生市	あいおい元気アップ支援事業	スタートアップ 上限5万円 ステップアップ 上限15万円 ステップアップ() 助成対象経費の3/4以内 ステップアップ() 助成対象経費の2/3以内	~	
たつの市	地域振興事業補助金交付事業	対象事業費の2/3以内、10万円/年を限度	~	同一事業の実施の場合、3カ年を限度とする
赤穂市	みんなのまちづくり推進事業	支援金は20万円を限度とし支援対象経費から収入を差引いた4/5以内	~	
宍粟市	宍粟市まちづくり支援事業	事業に要する経費のうち査定した額の1/2以内とする。	~	
豊岡市	地域づくり推進事業	1事業25万円を上限 補助率1/2以内 予算枠300万円	~	合併協議で決定した 期間限定事業
	地域力再生事業	1事業30万円を上限(最長2年間助成) 1年目の補助率:2/3以内、 2年目の補助率:1/3以内、 予算枠500万円	~	
養父市	地域振興事業補助金	(ソフト事業)20万円以内	~	
朝来市	地域づくり支援事業	事業内容により2割補助~10割補助 限度額は15万円~150万円	~	